

環境教育プログラムの開発に関する実践的研究	
題目	地域活動における学習支援の実践
著者	○神宮文代 小野田弘士

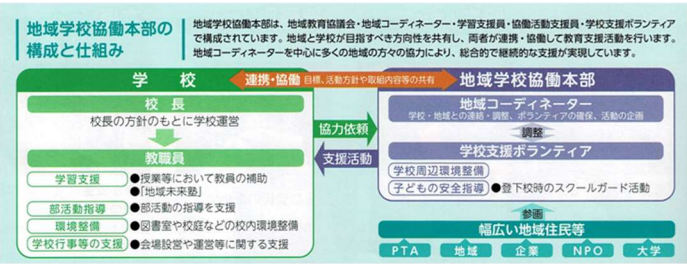
1. 概要

3 年ほど前より、地域の小学校において読み聞かせや学習支援ボランティアとして微力ながら携わってきた。これらのボランティアは、**地域学校協働本部**という地域のボランティア組織を母体としている。今を生きる子どもたちを取り巻く環境は複雑多様化する社会の中にある。その社会において、これまで以上に学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てる体制を整える必要性から、この組織は設立された。地域の人々が一丸となって、しかしながら無理のない範囲で協力しながら子どもたちをサポートするこの教育体制について事例研究を行った。

2. 地域学校協働本部について

文京区の WEB サイトによれば、「**地域学校協働本部**とは、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間を増加させ、地域住民の方の学習成果の活用機会拡充や地域の教育力の活性化を図るもの」とある。また、文京区では区立小・中学校全校にこの組織が設置されており、学校からの依頼を受け、読み聞かせボランティア、登下校時のスクールガード、環境整備活動、職場体験受入先の調整、授業支援、放課後学習支援、クラブ活動支援等の活動が行われている。

とりわけ放課後学習支援においては、8 年前より「地域未来塾事業」としてスタートし、子どもたちの学力向上、学習習慣の定着のために行われてきたという。学習支援員は主に大学生や保護者、地域の方々が担っており、筆者もその一人ということになる。



「地域学校協働本部（令和 6 年 2 月）」より

3. 筆者が携わる地域学校協働本部について

地域学校協働本部は、先に述べたベースとなる支援活動に加え、地域により独自のサポートを行っているところが多い。例えば、筆者が携わる地域学校協働本部では、サマーファミリーフェスティバルや礪川マラソン等における子どもたちを対象とした地域行事支援、土日祝日に体育館や校庭、プール広場で子どもたちが遊ぶ際の見守りを行うこどもひろば支援、漢字検

定や算数検定の受付や監督等、検定試験の運営サポートを行う検定試験支援等を行っている。

「地域学校協働本部（令和 6 年 2 月）」より

4. 終わりに

子どもたちを取り巻く環境は目まぐるしく変わっている。筆者の周りでは保護者が共働きという家庭が多く、我が家も共働きである。子どもたちがより充実した学校生活を送れるよう、可能な範囲からはじめられる地域学校協働本部のボランティアは取り組みやすいと考える。PTA の役員は、責任・負担が大きいが、単発のボランティア活動ならば、参加できる保護者も多いことが予想される。

筆者が居住する地域には地域のことを良く知る高齢者の皆さんも多く生活されている。そして、既に地域学校協働本部では、経験者の先輩方にご協力いただきながら子どもたちの支援の活動を広げている。核家族世帯が多い現代において、「遠くの親類より近くの他人」という諺ではないが、身近な地域の方々と手を取り合って共に子育てをすることでまずは地域の未来を作っていけたらと思う。こうした人と人との教え合い学び合うサイクルの中で、持続可能な地域づくりは、より良くなっていくものと考えます。